

校長室だより

第5号

平成30年5月18日

MOTTAINAI (もったいない)



【 ある日の下足箱 】

ある日の下足箱の様子です。私は、できる限り、一日一回は下足箱に行って、そろっていない子どものくつを揃えるようにしています。

朝会の講話でも、時折、天美小学校の3つの“あ”と2つの“あ”の“あとしまつ”で、下足箱のくつについても話しています。その折に、「面倒くさいけど…」「面倒くさいからこそ…そろえましょう！」と言っています。

6年生は、ほぼ定着していて、ほとんど揃え直す必要はありません。(写真の右下2枚) また、くつを前に向けて揃えている子も結構います。

昨年亡くなられた『置かれた場所で咲きなさい』の著者：渡辺和子さんの本に、『面倒だからしょう』という本があります。「躰(しつけ)」という字は、「身(からだ)」が「美(うつくしい)」と書きますが、「面倒だから・・・」、「それでもするから」身につくんでしょうね。

【 大人の根気が大切 】

先日、本市教育委員の松井直輝さんが来校され、姿勢良く授業に集中できるように、態度教育の指導をして頂きました。昨年から、態度教育に取り組んでいるので、子どもたちの授業への集中について、一定の評価をいただきましたが、いくつかの改善についての提案もいただきました。

その折に、こんな言葉をいただきました。「態度教育も含めて、躰(しつけ)というものは、大人が根気よく、あきらめず、流れる川に字を書くようなもので、書いては消え、書いては消え、それでも書き続ける大人の姿勢が大切です！」と。

笑うから楽しい！

6年生の国語の教科書に『笑うから楽しい』という説明文教材が掲載されています。

話の要旨は、「悲しい時に泣く、楽しい時に笑う」という、私たちの体の動きと心の動きについてのお話です。

同時に、「泣くと悲しくなったり、笑うと楽しくなったり」という、人間の不思議な心と体の関係について、脳や心、呼吸や血液の循環とも関係づけて説明されています。

「笑うから楽しい！」これって、苦しいことも、落ちや笑いに転化する“関西人”は、なんとなく理解していることですが、理論的に説明されています。

最後は、次の言葉で終わっています。「何かいやなことがあったときは、このことを思い出して、鏡の前でにっこりえがおを作ってみるのもよいかもしれません。」



もったいないミュージカル

先日、芸術鑑賞会で”ミュージカルパフォーマンス・もったいない”を鑑賞しました。

地球の環境・資源問題を、「もったいない」の視点で、解決していこうというお話でした。子どもたちも、手拍子や体を動かし、ミュージカルに参加する体感型公演でした。

子どもたちも、主体的に参加していました。ある高学年児童が「感動して涙が出た」と一言。劇団の方がマイクロバスで帰る時、手拍子や振り付けには、ちょっと引いていた6年生の男の子が、近くまで見送りに行ったり、2階から一生懸命手を振る姿もありました。

私自身も、「もったいない」がテーマということもあり、劇団の方と熱い話になりました。(^^)

心に残る、ミュージカルでした。

心に響いた言葉

巧詐不如拙誠



先日、新聞を読んでいると、”今の社会に求められるもの”というテーマで、ある方が中国古典の名言から、上の言葉を引用されていた。

巧詐不如拙誠。「巧詐(こうさ)は拙誠(せっせい)に如(しか)ず」と読むそうだ。出典は『韓非子』。始めて知った言葉だった。

意味は、漢字の配列から推測はついた。「言葉巧みな嘘や詐りよりも、拙くても誠実さには及ばない…」こんな感じかなと。

私自身も、学校、府・市の行政で、様々な経験をさせて頂いた。上手くいったことより、上手くいかなかった方が多かったように思うが、仕事の流儀で、自分なりにたどり着いた結論が「誠実にまざるものはない」ということだった。

7年前より使っている、手帳の1枚目に、「誠実」の言葉を記している。

「巧詐(こうさ)は拙誠(せっせい)に如(しか)ず」心に響いた。